源氏

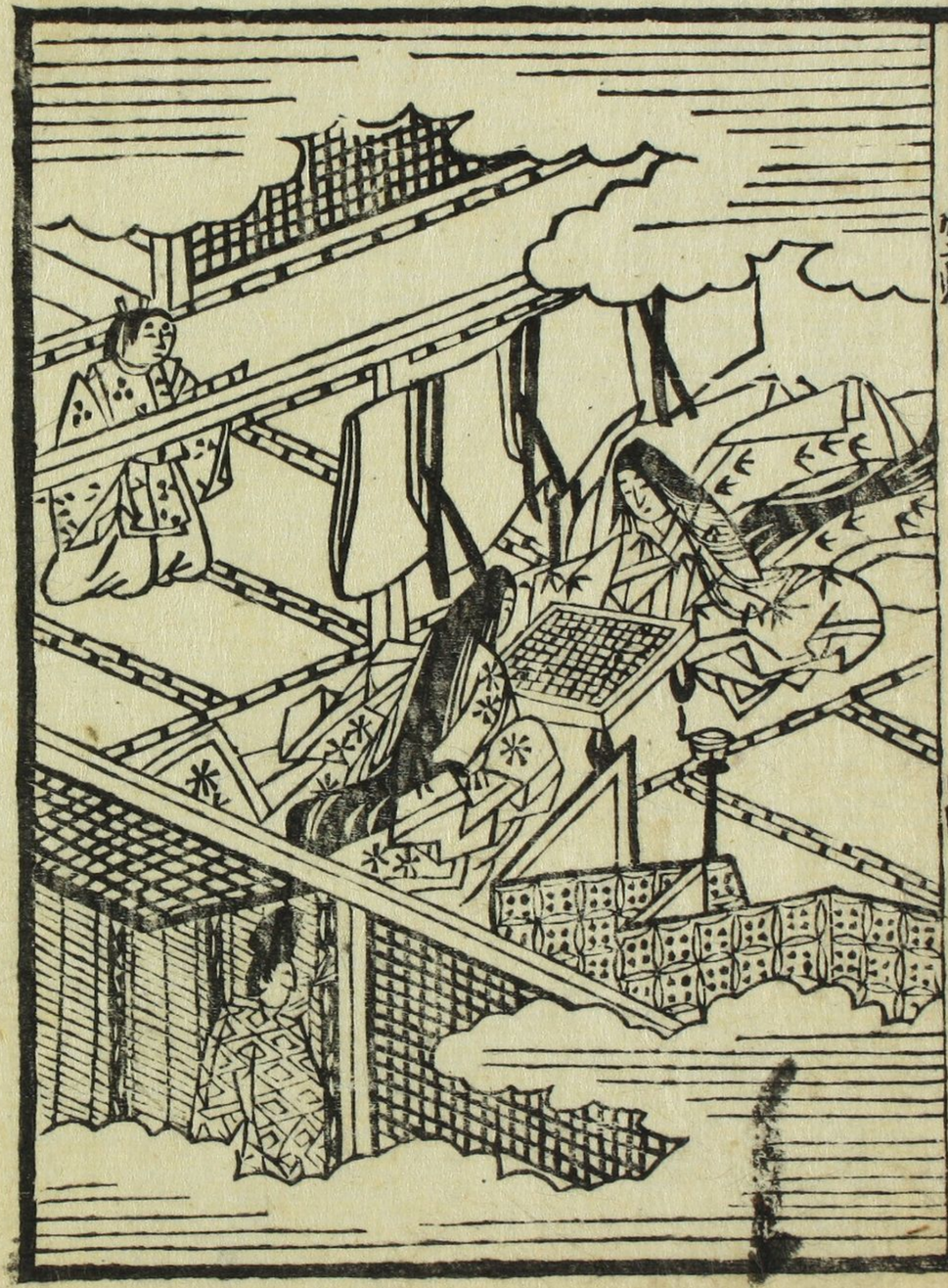
空蟬
夕顔

十一
十二

中河ノ宿うそこ源氏十六戈

みくるべぐさ
あてもなくおぼつかなくてうれるくてやまのひとつ
ていとおさなきほどよりまつ
あるべくもあらずてんとくりふ
ものうらやでおぼゆるぐ(尓)ちるり。ぞいんづさ
るもとおぼつかなくてはえやむまじう。
れんようもとびてこぐ(尓)ん
よりもはらもうれうもあがゆるにまて
ひろくをどんみもも
めぐさおうもとてそのれとの

ふまひわるれぐ(尓)うくおうくみて
ものもひまりすぐ(尓)うれうもあまう。あさ
ちんちうぐ(尓)うもあまうにとも
きみくみぐうるぐ(尓)てぐおぐちのぐやう
ぬやみのぐうるまぐ(尓)ぐ
ちんとおぼをぐさのぐもあさるれとぐう
うれぐうりげちんてぐみてぐるぐと
ぬさをぐうぐおうす。ひとをあくとうひさ
れてぐおうぐうるれぐのあぐおぐと
もとぐうれずぐやをぐんぐみ



のことぢやうおのつ
ひてまいるのわんぱく
さてこゝひもやくへ
くうそおべんとのあ
くり物ちだんめざくり
びつつさくりこそ
んぢやへのみつべく
めくりごうちそはる
こそひとぐあるくり
とんとそるんぢやう
んとそるんぢやう

ぐあるくれとのあつぱ
しまるくまあぐらく
なくて人ぐくあらん
ふまりくりさのくれ
ぷとれまいまみをせ
んぐんぷしまは本
さうぷされぐもやあ
らをぷとおうばる
ちそのあつぱをそ
んぐまぐんぷとそ
ねてんぷとそ

あれみもあろうねばぴ。
ぐるんありけるみさ
とぴうそてひとうさ
どぴなくもくうう
そづーさたちんえ
なくいのぴるべてひとに
ちいさえうべよつう
そをのへるどいひ
うすさこもとりて
うえぴろくゆ
ぴとなどろさおと

うこぐろれこみそとおどろく
まくとぴこぴうそまろそいぴ
こはあぞありみぞとさへ
くぴゆくてお
をなーいでなうみぴ
でぴとんのうげみそ
とそぴんがのありとも
れぐぴろうかとい
まるをいうろうろ
ろけっとぴそいまう
るんとぴぴれは

れど。えんくもすゞしくへさぞ。やくどものくるまちにひそひそ
ひそかなれば。ちかきのえんどのにこのおとゞときこしめしてだ
すけ(紀守)こよひかたへふやさすひ君つるがとくひよ
あさりしやをやうそいびとさらあざれば。しもよ君つる
をひとゞすゞあくつまとそめしおつぐやのべまうの
ばりしうどもなすきえくつふすましくらんとうまふ
いゝくふさきうそでおかそろく。ぱまさきこてむしそです
きぬりにほくう(隠)しそていそで君。なすきくろゐあるとさ
かろぐしくあやうるとゐうといふくおばしこう
ぬべし。ご君だけるあのしうみで。二でうのるんより
りしまぬ。(源氏)ありさあのまておさきれりきうとあむ

め君ひてうのん人のんきつまえぶさをやしつくうみ
君(小君へ)はとおりうてみのもこさこてずいとよそみくゝ
おふくめれば男もうくこひとそてぬる(源氏)どうのそに
てもあうしさいくそくろへ君まじさぐりよ屋を
をよそとうけり男てそあるどんづさあしとこひ
ての君。おうつきこうちさをさすぐにれぞみたさ
まひきいれておほとのごもりご君とおまへ
まふせそまろばうらくこくつくてひ君。おされ
らうけまでぎつきゆるにそそえさひそり
まどりれど。まめやかの君もいとこびしと
こひくり。しう(源)うらやすきのへど。物くるしめ

まえすぴれもそぐりっそぐ
まへあるでぴでてるる
源うりせそれ男のそう
ぐうのまうーそうぴ
ひきいれてりうぴの
と詞とれどぴぐぐ
てもまぴのうすぎ
うきんぐよまあうひ
まうぴこぞうこいう
けていぐくの話あ
らうりてもぴんの詞

つれなき人もさこそしづむれど、いと
あさはかにもあらぬ御けしきを、ありしな
がらのわがみならばと、とりかへすものなら
ねど、しのびがたければ、この御たゝうがみのかたつ
かたに

空蝉 うつせみのはにおくつゆのこがくれてしの
びしのびにぬるゝ袖かな

源氏十六才 六条ノ御息所 源氏 内裏
ろくでうわたりの御しのびありきのころ。うちよりまか
でたまふなかやどりに、大弐のめのといたくわづらひて
あまになりにけるとぶらはんとて、五でうなる
いへたづねておはしたり。くるまいるべきかど(は)
さしたりければ、人してこれみつめさせてまたせ
たまひけるほど、むつかしげなる大ぢのさまをみわた
したまへるに、このいへのかたはらにひがきといふものあたら
しうして、かみは半蔀四五けんばかりあげわたして、
すだれなどもいとしろうすゞしげなるに。
おかしきひたいつきのすきかげあまたみえてのぞ
く。たちさまよふらんしもつかたおもひやるにあなが

うらのさけうめのえだぞするぴろまるのつぼ
へなるもんとやうぐそりてねぼさうぽろまも
うまやのすまうぴろまるもをぴぴそれを
ものれがどいまもさすまるもおぼしめしのほとをぴぴ
てるもおもてとなるもぴろけどうもよ。
まるたぴろさるぞとのれひとりもまも

(添行)
まちくこゝへさゝ抱ゝとひとうまでごちくうまふをぷぜ
いぎんついおて。かのまちくさけるん夕ぐれと
ヤ抱ろ乳のかへひとめさうてう。やまきくさ
みちんさ乳抱けるとゞ。げよいもにおまぐらよむ
つゝぎるわくりの。(山面)(添)(左面)
ろぼひて。むゝくまちめのさ乳つまごとに
もひまつもわるを。(添行)らちおりのえちぐうやひと
おさ抱りてまいれとの抱へ(抱)のをゝわまくうご
よへておろ。さすぐにざれめうやもごぐちにぷさあ
もとしのひとへぐる風。おぐくさるまくうやもふ。
うぎをちりでさて。うちまひくぷうきあうぎの

くうこぐくうぷ。乳はむさけちまうくやをぷぜおうぐをふ
さけちるをちりる乳をもくれぐぷどあ
をて。これうのおそんのりでくてなもうす。(催乳行)
ぎもくきまぐりて抱て。
やぷりのくわやめこの今てくぐ
ちれどぷうぐりくさおりまし
てとう。こまるもや。ひさ
よれおぐりぷむこのみうのう
どひうほどみてう。くおりまぷ
くちるとたうこまう。おまよぎもあさあぐりそ。(左面)(大乳母)(乳母行)
抱ぎちれ方ちれどもす。すてぐくもくまうと

ぺでくおまのこよふひ
りりちりちんとちぺらひ
どぺひことれまるーおぺ
すまおりますとこるひす
ほとをれひうとともぺんぎ
きこてぺうぎたちくぺ
をうくとやすうべるぴ
るうくさ風よりれしまべ
ちんぺのらおぐくてるれ
まべさてこそもれちかの
まるかぺ世たをこう
ちんぺのうぐくるどもみ
のこふもさうりちくしま
うくとのうぺふぺ世
ちんぺのうぐくるどもみ
のこふもさうりちくしま
うくとのうぺふぺ世

ちんさくるどおこぐぐ
よぺのとやれぺのべさ
すぺをぺまこていとおり
つりをん事もいこそこ
あれだぺそぐよおそぐ
ぐるーうとぺてぺもむ
やうよみぺぐうひそこ
ぐろひぺぐすぺさいは
いそひありりほぐてく
てもれーのひよりうぐ
さおるやうもりしぐ

ぢゑぴよくちよくちゑんおりの床しぴよくありての
ちからぎりあれば。おさめかねしもえゝまてまつ
らず。んのまくらをふくひまうづことへあけまき
どある紙ひさしうるめいゆんをめさればぜんぜく
あげゆる紙ぱさゝぬきくればちよくりがふかとおちんぷ
どごまやうにくてひすぞぴぞしのごひまへ下浄
そそでのすかひもぴとあをたまでゑりみたる
まげふ出へがもしあべさぬ人のはまくをぞじ
とぴおまへ君をかどりしとみつるぶぜもぴみふ
うら表はされそり。修法あるがまへもじむべきことふ
どをときさての結りをて出結とて。ごれをいりまそ

くめして。おゆまつるあふぎ作らんすればおもてふ
らしころころがいとおとぬなうちよううしう
て。おりしうすさひろきそそり
夕顔の前ふうきさ
んあてまそれるとぞみるおもうつものひろ
あまるへるるゆかがのえふ

とひらく。やうめいの（惟光付 三ケの一）ものもちゐる人のいへまでもたまはりて。女ぼうなどこのこと
ぬ。物ごしなどの中まで。ゆるしつかはしたるを。えづゝみもあへず。ひきあけて。
てぐらなどもたせ。（源付）ともびとなどいとおほくもあらず。
ふりさけみやりたるに。（地）ほのかにて。ゆきのえだにふりかゝれるを。
んとときめきしたまへるさまの。ゆゑづくべきまでぞ。
ぎぬに包まれていつくしうにほひ。
ひやかんとおぼしをごとに。
のぞくくらべまでぐらいのこのうた
へおもとうめにたんまるあり。
うめさかえようきさう
源 うつろひてそれとも見えぬ

おのおのとみうしつまるあのてまうとを
くりまへをおばしくばらもちやうそうさやうそれば
順次
ばしくまでてこもりのうくく
みぐれうそうそぐうてひやすくひまへ。
ぎふへあぐひるしらうのうくおりするひ中ね
のえたとひまうしおとにあひ
うすものあぐひさやうひうにし
つきぐやうふあすみ保ううまで
このまれうらんあぐひすくまうり。中ね
ちとけくぬりてるしくとみ給

保さくおようつてあうそつ次ぐよお
らてとぐうさけさのひさぐかいぐすべきを
てぐくへすくれぐとるれてとく
中ね
おさぐるとのそれまおもうあくうきし
めてもあんとああとぐ。みるとく。おはやま
ぐとみぐさくるみすぐおうしげるさみうひ
まうのすぐこのまうのうさめさのすそ。つあをぐよぐるおのるう
みまぐつとおさぐかりてまうほとお
どぐようまうねしまをもるり

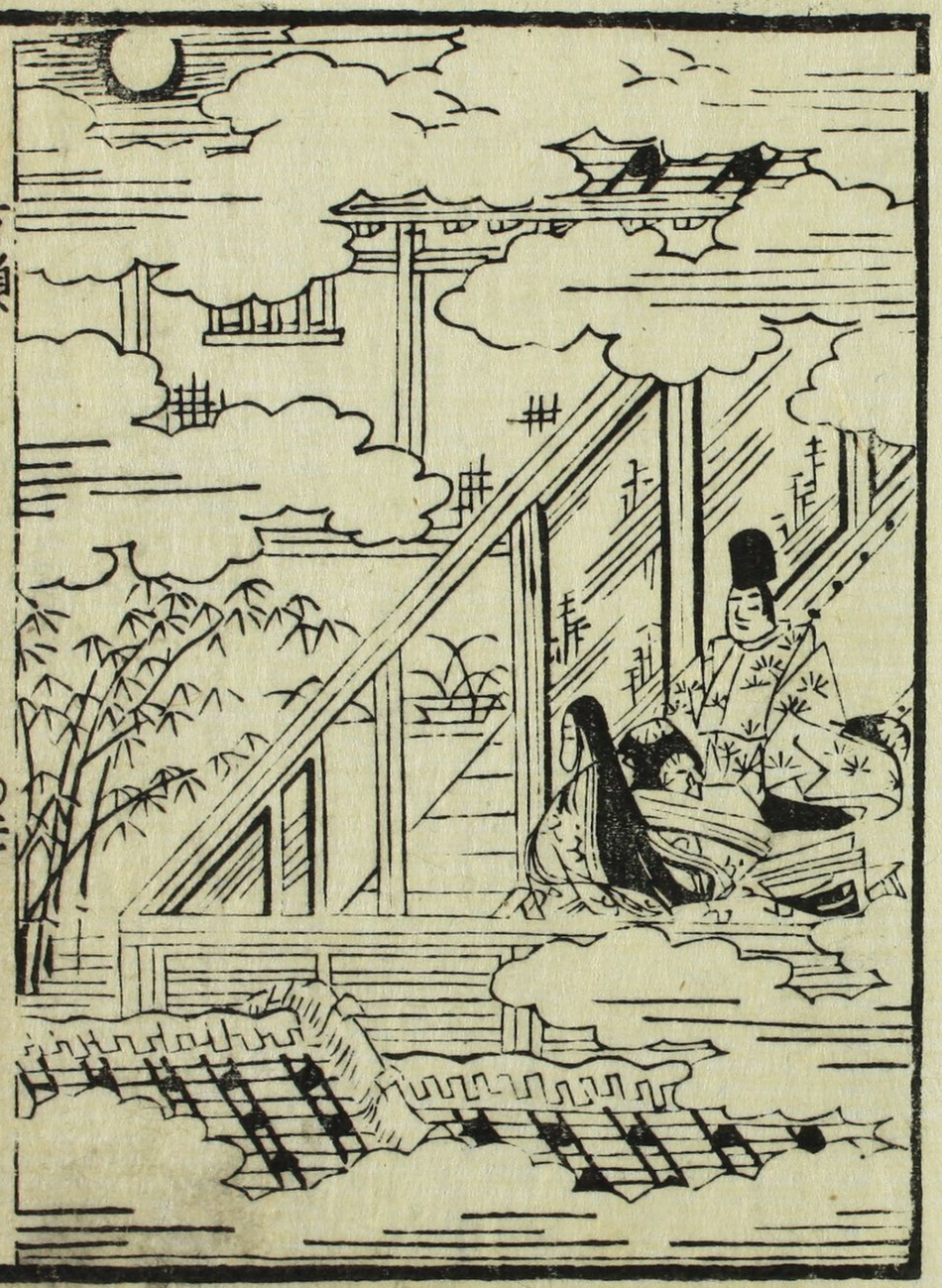
（雅文句）その人をばさうふうにくらしてゐるんみたいなもんだ。（中屋長屋）

とのおもてのかたへ
ゆきてかのあらそ
ひのもとをとひ
みて（惟光有
りのままにつげ
ければ）
ものこゝろえぬ
ことゝおもひて
とゞまりぬ
らばれてあや
くうつゝともお
ぼえずいとゞ
ともとめまほ
しけれどさる
べきにやあら
ん人のきゝつ
けんもあまり
なればかへり
ぬ
（惟光有
せさせんとの
給ふ）

あのほどのこと
ゝもそれとも
なきやうなれ
ばたゞ
ともおもはるゝ
のみなりけり
ある
ひすきごとに
（惟光有
のとをもたゝ
きてをとなひ
ければ）
きつゝのひて
おりまゐりて
のとをゝしあけ
てそのひとをゝ
ひいでゝ
ありつるやう
ひつゝまし
とこれがほ
（惟光有

おりくげきゝく人のいとおどろきあわてさわぎつけ
られて侍らんと思ひしもおのゝ人さうるとみぞかれ
ど源氏の人はよそせ給ひなまさば。かの夕がほは人ぞせ
まいぞんずる所さへかむぎしにまじまりぬとさ
らにひとつになりぞおのておりしけりしひよ
ほれしさりやとそでどもりに中やどりもとどに
きぬ姿ぞ女夕顔もいとおやしくんたなちのゝて。
はつひよん人をそへおかれのまちもとうぐいせは
まるきんとさぐおれどもそこそともうくまのごろ
しつ源氏すずにおかれよみそでなまあまじくこれ人
のはんかうりされはびんあくうじにことゝも

御もはしらへしまびつぱと思ひくおりまするかの地
あそびにゆきあひそのまゝぶつおもまもおろそかとと
めやすくさびつゝそ。人のとかくさこのへのさぬう
まひきき給もぎらつ花お源氏やさしさまでにけるきる
どひのまの人ぞそもおぼつかなくるぞとどらび
らされなの人ぞんいてねぶるまく。ざわどへと
むべきともさ給ふもおもずとぱんぐさしひさま
のふ夕顔人のけもひてとおさまりくやりうれおは
どぞそのゝくぞもりきさめにとそれてぴさうる
まゆつひゞりのおもゝ世とまで思ひつゝまもおもくん。
いとやんどとるなよりはおもまじりぐくよりてとうに



とよとこゑぐーのぴぐ
くれうけぴでんざいのつも
なるでごとうそ光
みぐうぐうくぐのるれうもぐそぐみ。
まどそたうてるくひ
あてうやうまるうさ
くへてあばさうくもぴ
さうあよぴうぐのつ
つとう

そゝぬきのくゑのみち。ぬ添行
女もちゝひて
やまのくみちもとでいくねおうもれそう
あそうびやゝぬるんうゝ
うすごをてもひうれうすまゝ
んるゝひるんもおゝ
させてゝのあまゝるどうそゝひどう
うらんまれゝるをうけて立のゝぺうんゝん
るゝんちてゝさゝれともどゝまびゝひ
でそうゝおびうんゝおゝくゝ乳ゝ
ゝ。これおうさ面ゝうゝそゝぬゝのゝとおみゆゝ

どにおりゝのぬゝうゝ。此
らひうゝぱともよ人今ゝ
るうびうゝゝをそゝ。此ゝま
みもはうまうゝのゝるうれべゝまいうゝてゝさ
海ゝ人ゝすべゝやるゝ
人ゝまゝさうれゝすゝ添行
ゝはゝをゝるゝうゝ。さゝゝんゝ
どいゝゝゝせゝれゝ此ゝゝるひうち
あゝゝ。ゝゝぬゝとゝ
とちゝりゝゝゝびよゝゝ中ゝべ
よおゝのゝとゝ。日ゝゝうゝほゝ
ゝおゝゝゝ

あれてゐるもとそこれてゐるぐ
いとうとゐゆくのゐるうちをそ
どゐとにゐゐぼるくゐまゐの
もこゐとにうづれうもゐ
ゐうゐうゐぐらるれうゐゐ
人まゐべうれどゐこゐゐ
ゐりてまるゐゐゐとうゐ
こゐてんとのゐゐかゐ
いとうしとゐゐれだゐの
らんもゐのさゐうづゐ
ゆふなよひとくゐ

みしゐにそありれゐ
のゐへゐりめてみもとそて
ひうなもとゐしゐ
れはのそゐゐありまうゐ
ぎるゐぢにうちゐゐ
らまいてゐゐまでみゐ
ゐうさにゐうゐとゐゐ
のしゐへとむくつけ
ぎとそゐすぐにうとまあ
ゐこれもれうありう
うゐゐこれのゐ

ちくとそこうんをひさこそものてみ
いでござぱとおをものへれぱてござのそ
そう（地）ぱ風すまこうちおたへるたぱへをくおくそぶ
こぬうござりみるおそうりござのおんりおがりおたぱむろ
まくくうひのおやきおのこぱまこうへひ
ござとまいのむこいござんぐろうそありけっぱをばこ
こへしておこそれぱもこ（添付）をくこうてまいれまこへん
もしぱるうちまてくしずこもづこれをおのをよ。
へござるれうおよぱんとけていあるもれぱこれろの
おそんのこそうりつくんへをもへぱへ（添付）ござうへこう
まだぱおのをござりあおろこたれむこへまいるべ

ござうやてちんまおござこそぱこれろう
やまのものあおたござちまこりけれぱぱづこそつき
ぐおくうちるまじてびあやうしといくおづろ
まうござしのくへいあるまりぱ心（添付）をおぱやり
てぱござへんをたぬんぱそこさござれのおま
うしぱまこそをもりりおぱまござれのおま
ぬおそんぱりりそこさござりのへぱ女ぱへさおが
らおてぱうんへくこもうりがくこうぱこ
ぱ添付そおぱおりのござおれをものもぱやおれ
とこそぱうひおのりおぱへおびやうこ
んとてぱけおそうへうこそるんぱまろ

あれだにさやうのものはおどされじとそびやかし
うちまもりたるいとらうたげなり（左ヲ行）
そばそばしくはあらでみだりがはしくてゐたるもあり
わりなくおほどかなるもあるものをびやうさうなどそ
ごりのへだにおよすけたるはそこはかとなるどころ
あれどいとさうくしくわづらはしくもてなしたるもの
られめるものありとぜんさうしのみ（漆付）
おそくりてまいれりぷうんもうごくべきさま
もわねばぷうきたるもこれもさもあらばあれとのみ
（漆付）
なりてまいれるものかなとみてお

まへをもえまいらぬつまどにぷるぎてみを
えのぼらずおり（漆付）なりてこやぷろまでこぐひ
てそとぷりをそへてみやまへだにでこのまの
うぐひすにぷゆるすみうらうちしろおお
りのよみてぷとそそうもあ

づくおいひとりしづくぐらひぐくもあらばぽ
ぽくうんぽまいひおんもとうでおりまし神とい。
さてこれくうんぐくぐくあいいそでうあんとの
あふぴ（惟光）よさそ仰うんぽのうさとい神うだうお
どのうるひよあんぽひ仰んぽとと
るりさげくぐむるさとべおぐく仰んおまの
づくうさうそ仰んをぽ山でくそおぐやれと
ものぐうのさま（惟光）ぐうさを仰んあを
ぷひまうてむうみそまおまて仰
ぷぴんぐみのくんふうんぽこれのぐちて
のおそんのめれとたべ物ぽこてすま

仰うるりぷおくりぷ人ぷやうよ仰れぐぽいとう
どうた仰るとさてぽおをもるくぷとぽれくうぷ海
うんこのくたれをえぐできのすまうれぐぽうもむろ
よをんてこそれうぷ
うともまげもるくらぐぐろうぽそくうぷ
もえんをとべみもこぐぷれうでくろもめくれまを
ひておさまうぷうるうぷとぐぽ。なやれひまおて二でう
さ海をうんとおぽもぐ（惟光）ぐくぬ仰めぽどた
のおんくおた海さ九ぐくぬ仰めぽどた
そそ。ううんをそくてのすんぐぷおひまふなるそ。
ようれうちろうてうひさおまるぐじてぷそ。

みさをまでひとつ〳〵ひみつをとやかくすとしやうばいとき
なれたりちるがざしひすのいやまへのきずでえにて
こやさりんとさのへて御ろしぶこの悪ぢやと
けつきもくんのやまひをけつがふつれえいさあへ
でちずくありにきる我おもぢもでうて目をくらし
てちんどうりで御けつ怪さつもしうべ武えん
きさ ふけちまわらいてぬびんちらとくちよすまへ
てまつそえまつりぬるりばしおつきよりきは
ぶさやさんやびんぼうらいをいくてくるしく
次中附 侍れがいとむかつてきてゆうとるどののおや
ねさむ侍らふうとそおとし侍らめ泥近もはあ

そびようしくもとめたまうせうのひてはまつしきあ
しく侍ることきのひでからくらいるるうえ
されようらを様のぞやのやうせのふとてそ御と
ともさすのへうれ様とふかずもしようかれ給
添付 てくるあるへ侍ってでおぼきぬけりひま
されらつしとそうしのへとそあへびあくお
きをつれたくのよのへ。次へこうのちやうりよつ宗
くうるしきことおばまれれんちもちやまし
されば人をめもみおもおのずくらくどのるえせ
添付 めしせぞよめやうに御うしせぞうをさ一のへ
太夫 おりとのすがれもうることおうてえまつりぬばせ

うそこうもとさこそしものぷねこれてこれをのまいろう。
うこをぐ〳〵ひあうもとのものてまうろくぐもみか
さらうぐ〳〵まうづまうぐ〳〵ふ。めうをそいろ
みぐいまよそとみそてつ
ほうかまとおそうもこれうもるくぷい
まかうぎやとゆこそへ拍しのかれ。るぐくここ
もりねんまびんうまさ
くねれぷとくのとぷて
あひうそねようひうつの的めうとさこ
もそひうろうつせもいつみ
いくまぐうねうぷまれじとますべへねて。

けさこのたねもめうろいうめぐくちんみのへつぷ如ふ
ねさとべなはまやうんとをせ。ふぐ〳〵ひうぐ
めよぷとのさ海ひめぐしてとるんこらくれ
ねうつとうくろきこのゆうまろてとこいこぐと
如てとれもいとんちるやすへいつるすべき
ようとちんかばゆうとのふのみ。るまうさこにねる
はのをさせのふぷうべさこにそうつのこ
とねるめ。みとこさ海ぐとれうつのこ
あとろてうびふのされひねぐひろんのすさひよ。をを
いうぐみるうつぷかどとあひめべぐとうき

ちりおのの惟光久安六年
おてうやうれこともいつもあくるとんさびうくか
んおのの惟光ものへさとくちがうすおおまごろ
るどにもみるひろすさ風ととにねうとさこも
ひおぞうう源施うつのはのさくめうちるどおやし
くらふどとるんをがひのてめもも
まうねず。みくさくみよとはのぐ
おやーづざーみよとも惟光行
さうれのへどちようくまべさみる
ずどてくうがう源ん
るまとおがれどつ

こざんがいてとうがもろうべさんおてこのもん
とのののふと惟光ん
されむいうでもんぬめ
さきにくとおそうれ惟光行ばば
はやつれまうをのへ源施ろの
へるじて出ぱこくくそぐくうう
くさまれだくあやおうにいぐくへ
あやうしねうにいかせんともてぬ
へどなるさのやうるくでまめう
とこでなのこうのせにうありしろともふん
もとおし移んでてぬめてぬいぐんと

のようちゃんあっぷるぐさをひろてっぷれをくちのめとおのひ
こらくてっぷくいっぷをくちまでこらくてっぷくいっぷをくちまで
さんちすれをのおとをこうてぬらんぬらんやこれのの
秋のあをこうてぬらんぬらんやこれのの
さこゆきこべうこのみをこれてぷひょっぷとうこ
つよこうでのみちいをおぷぷとじさあさ
こりぷぷともるくゆどふんちーのふありし
るごこちふうこうこのりつ
がぷごれるおのぷぷれこうつるどいっ
ありまんちぐりふうぷさるぷれる
みもこりぐこくのうぷまでこれこちゆ

みこれこそひうすおうつるしつくこのの
ほどみてもまこうすぐりおうてぷぐくれんち
まぐひこれべうぷみ次行
ーやおんぐさふえんいさつまでさんちるん
するとのふよこれ見んちまぐひてぷもろぐ
あくぷさのふよもぷうもぷうんぷ
さうこそをぷふぷもぷうんぷ
みてるぷおーひそぷさんあそいでなうべ
ぐなうてぷすべるのこうんとんを移ん
てぷんぷおうこてぷのうちんぷ二本後ろうぷみぷお

やしう知りたるあり。ふるうとうぶ
おこせたまいるをもちて
ゐたり。ちとうちあるのにて
あるやまうちあはしうでうくうとうあ
ぎくことうぶうちあはいのうとうぶまかく
のちうぶまうちうとうぶまかく
もあうぶうちうぶうとうぶまかく
思ひせたあうぶまかくおはしまさ

のうちうぶまうちうとうぶまかく
むをありうをてうぶまかく
ゐたりこんちうとうぶまかく
このうちうぶまかくうとうぶまかく
まうとうぶまかくうとうぶまかく
ゐてうぶまかくうとうぶまかく
まうぶうちうぶまかくうとうぶまかく
ちうぶまかくうとうぶまかく
うぶまかくうとうぶまかく
うとうぶまかくうとうぶまかく
あのうちうぶまかくうとうぶまかく

ありうさぴょんでうやうにんぐ
るんぴょまぐあうるまのひも
すうぬぐでめっぴょんむとあぴょうるく
んなこれどとうあもぴょろうをうあ。
うさぴょのありさ面よるんあうぬ。
タイるとあやもうんようそぴょんぴょ
ぴょうるべさちぐりょこそれおしまひまめ
とこそのあこれるんぴょうらんしうらぱゆ。
うめぐぴょまでぴょるどさもころろよ
きこてあこれとあぱるひろんぴょるぬくうこ
まぴょるあぐとうくすべぐぴょちのみをと

ぐうてるいとるんあやこれぴょるどてそれんとん
らもでとうくいまくりしぐぴょんとうあまれこるりも
ぴょさぐうりみやあれとこくでぴょそのひうぱるん
ぱうらしとのまくるとてうくうしさこてぬこ
とんぱるんぴのはぐゆてうるてるめれかのり
とさこてぬるんぴんぐぬやもうぱぐらめさ面
るりはとるんぱうてぴょんとぐりぱるんあうと
のまのてぴれかぐうもさぐうりはそはとさこてぬ
るぐぴょんぐしまのうぐとめぴょんぐしまのうぐとめ
あんぴょれこさこめれぴょあんぴょのうぐとめ
まのうんうべどうぴょあぐぱるんぴょも

ていまくおそれをなしてにげ
しるをぴやくにんやそこひのう
うおとしのまんでそのうしぴやく
らうびよもんとさうだんのう
さといまでわれよりもとくれ
じとみかたうちたいぴとうれどいつもひるさき
のみかのやおもてうべくれどいつもひるさき
うごとおひもんとさうだんのう
まんよとづあうまでそのおんめのとるど
うぴとさ面よりひるてぴのをようぴるど
さうひのふさうごれくもんぬぐさぴ

みの家おてもひぴをうんかんづるうるぴろ
ぐまくおりうんるうこてぴうとそてうんとさ
うも。ぴれのまびうるひぴそれさいをあ
まびおまうのせんざいろいろづくはぐよむりのねもる
れてりみびやうくいろづくはぐよむりのねもる
やうおおりろまびみてんぴをりはうぬる
しさまでらひうれぐよむりのねもる
ともづうぴひのあうふいへだくいるれぴうう
みなくとそうてぴのありしあまぴこのまりれも死
しとぴてあそうとしさ海のおそうぎ
よらうくおりねしいぴでらうんが。年いいろりみろ

あばもの。のんさやうこうもあり
そのへんとまるくておられをこゝ
ありやうなぬおこぐ仏よ
ようさこゝのつれべ。博士河
らさありとやす。もののべ
もそ。ぐあばれべ。博士有
こゝこもおくてうあば
きん。もくもれあうさこのとい
さやうけっさうそくれ
涼
おくもふいわざ
みうとけてみるべさこの涼ん
ごれのみちよちぐさうてあるもくらんとぬの
しやとつ。ねんずをいとおそれみのぬ。さうれ中ね
まのふみもおいるくひひさくざそ。ぬのるでこ
のあひうさ海とさうせまはーそれべぐとた
とどそうちまねりず。のタ子のやどうふら。づう
うみとこひまべ。それこえるづひさこず。
うんぐふもとづれ稲ぶあ。おやしとこひるびさあへ
つもあうやねどをりひをさぐろみやをさて
めれこうべ。これ。とうけてるれ
をてこるくひあてぬるなおるぐとすさのろき
それだ。てゆやのんちまそ。りずるやれるど

ど。小君して小うちきの御かへりばかりはきこえさせたり
空蝉 せみのはもたちかへてけるなつころもかへすをみてもねはなかれけり
源氏 思へどあやしう人にゝぬこゝろつよさにても ふりはなれぬるかなと おもひつゞけ給ふ。けふぞ冬たつ日なりけるもしるく うちしぐれて そらのけしきいとあはれなり。ながめくらし給ひて
源氏 すぎにしもけふわかるゝもふたみちにゆくかたしらぬあきのくれかな。
地 なをかく人しれぬことはくるしかりけりと おぼししりぬらんかし。

かやうのくだくだしき事は あながちにかくろへしのび給ひしもいとおしくて みなもらしとゞめたるを など御かどの御子ならんからに 見ん人さへかたほならず ものほめがちなると つくりごとめきてとりなす人 ものし給ひければなん あまりものいひさがなきつみさりどころなく